

志度開拓神社再建立之碑

香川県さぬき市・大串半島

香川県の北東部、さぬき市の大串半島は瀬戸内海に大きく突き出た自然豊かな景勝地。自然公園が広がり、野外音楽広場、キャンプ場などの施設がある。戦後、緊急開拓事業により切り開かれた。

市北部の旧・志度町（しどちょう）と旧・津田町にまたがる開拓地に46（昭和21）年、海外引揚者、復員軍人、戦災者らが入植。その大半は地元縁故者だった。3つの地区があり、48年、それぞれ開拓農協が発足。その後、合併して志度開拓農協となった。

そのうち、大串地区は半島の山頂部に位置し、急傾斜で季節風が強く、飲用水も不足するという悪条件下だった。解消を図るため、58～66年にかけて、大規模な道路改良、畑の造成、畑地かんがい施設工事が行われた。完成後は水の問題がなくなり、カンキツの栽培が始められた。

半島の中ほどに「開拓神社」（写真⑤）がある。境内右側の「志度開拓神社再建立之碑」（同⑥）には、神社の由来が詳しく記されている。

90年の建立。入植・開墾時について、「大串 上野 末の三地区に五十二戸の帰農を志す人達を迎え 数年の間に五十ヘクタールの開墾地を造成した この間入植者は一致団結 厳しい環境と闘い乍ら血と汗にまみれ鋤を振り 戦後の食糧確保と祖国復興の一翼を担った」と刻まれている。

さらに、開墾の成就や五穀豊穰を願い、入植者の心のより所にと天照大神を祭神とする「開拓神社」を建立したこと、40年経過による老朽化と周辺整備の必要性から、現在地に移転・再建したことなどが記されている。

・ 香川県 さぬき市 志度開拓地区

「志度開拓神社再建立之碑」 平成2年5月吉日

※大串半島の中程、県道135号沿い。近くにさぬきワイナリーがある。

（碑文）

由来

昭和二十年八月十五日 大東亜戦争はわが国の敗戦によって終結した その結果出征軍人の復員と一般同胞の引揚により人口は急増し 食糧不足は危機に瀕し 経済もまた極度に混乱した 国ではこの対策として緊急食糧増産政策を打出し 開墾可能地を払下げ 各地に於て開拓事業を推進した 本町では大串間に五十ヘクタールの開墾地を造成した この間入植者は一致団結 厳しい環境と闘い乍ら血と汗にまみれ鋤を振り 戦後の食糧確保と祖国復興の一翼を担った

その頃 当初の松岡貴次郎らが中心となり 開墾の成就 五穀豊穰を願い 入植者の心の寄り所にと 天照大神を祭神とする「開拓神社」を此の地に建立した 以来四十年 高度成長期を経て時代は大きく変遷した 餓死状態の中にあつた食糧事情も豊となり それに呼応して昭和五十年代後半により大串半島の開発が企画され 次々とリゾート施設の建設が進められ今日に至った その

陰には先人の逞しい開拓精神と大神の御守護があったことを忘れてはならない
こうした経過の中で 曾て入植者が勧請し崇敬して来た開拓神社も 歳月と共に老朽化が進み 加うるに周辺整備の必要性から神社の移転を余儀なくし 再建の運びとなった

この度 大串半島開発企業より多額の御援助を頂き御神威宣揚にふさわしい
風格のある神社の造営が出来たことを心から感謝すると共に 改めて 当時を
偲び末永く御神徳を給わらんことを祈念し 茲に経緯を記した次第である

平成二年五月吉日

志度開拓神社総代 松岡義高

(開拓神社再建の碑)



(志度開拓神社)





(大串半島案内図)

